

古 城

第 44 号

= 発行者 =

茨城県立江戸崎総合高等学校

同窓会広報委員会

TEL 029-892-2103

= 印刷所 =

倉沢印刷株式会社

ごあいさつ



同窓会長

山岡 恒 夫

江戸崎高等学校

(昭和43年度卒)

会員の皆様には、お健やかにお過ごしのこととお喜び申し上げます。皆様方の同窓会に感謝いたしております。

江戸崎総合高等学校では、コロナ禍で様々なイベントが中止になる中、オンラインによる授業など感染症対策を十分にしたいうえで、生徒たちは素晴らしい足跡を残しております。稲敷警察署の花壇の整備をはじめとし、茨城県庁にもシクラメンを展示しました。兵庫県で開催された農業クラブ全国大会にも参加しました。

外部から講師を迎えて、薬物乱用防止教室や自動車整備士講習会、性教育講習会なども開催しました。

進学では、茨城大学にも合格者を出しています。

茨城県は、「国広く、山もはるかに、田畑は肥え、広野にひらけたよき国である」と常陸の国風土記にも書かれているように、昔から自然に恵まれた農業大県です。母校も、明治四十年に農学校として開校し、現在もグリーンテクノ系列として農業教育を続けています。

霞ヶ浦周辺は日本一のレンコンの産地です。中国の禅の書物に、レンコンのこんな話があります。

智門和尚の所に一人の僧が来て質問する。「ハスの花がいまだ水を出ていないときはどうだ」とすると和尚は「ハスの花だ」と答える。僧は再び問う。「水を出たあとはどうだ」と。和尚は言った。「ハスの葉だ」。

この問答、常識外れである。ハスの花は水を出て咲く。水を出ていない時は、ハスはまだ花ではない。にもかかわらず、智門は、水の中にある時

が花で、水を出てしまうと葉になる。と言っている。

その意味は、多分こういうことだと思う。私たちはさまざまな問題に悩み苦しむ。苦しみの中で私たちは解決を求めるが、智門によると、解決に向かって努力を続けることこそが「花」であって、解決してしまえば「葉」にすぎないのである。

私たちの人生において、どうせ悩み、苦しまなければならないのならいっそ、その悩み・苦しみそのものを「花」として楽しんだらどうかと、和尚は教えてくれたのです。

「素晴らしい人生を築きたいと思ったら、過ぎ去った事は気にせず、腹を立てないように努め、いつも現在を楽しみ、とりわけ誰も憎まず、先のことは神様に任せること」これはドイツの文豪ゲーテが長い人生経験を経て六十歳を過ぎてから書いた詩です。

人生はなかなか順風満帆とはいきません。むしろ逆境続きと言つていいでしょう。そういう中にあつても楽しいことを見つけて生きていけたら、素晴らしいことだと思います。

新型コロナウイルス感染症で、困難な時代ですが、希望を失わずに、会員各位の各方面でのご活躍と、母校のご発展を祈念いたしましてご挨拶といたします。

主 旨

稲敷市内唯一の高校として、今後の地域社会を担うべき人材を育成することを目的として、奨学金を支給する。

給付資格

本校に1年以上在学し、学業・人物ともに優秀かつ品行方正であつて国公立大学に合格し、入学予定の者。

給 付 額 **200,000円**

＝ 同窓会給付型奨学金授与 ＝



3年1組 漆川 翔太

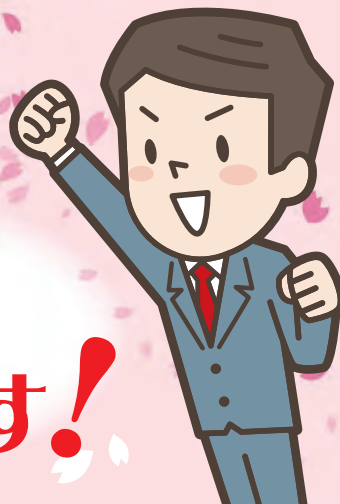
茨 城 大 学

人文社会科学部 法律経済学科

大学進学 を考えている 在校生 の皆さんへ!!

江戸崎総合高等学校 同窓会は給付型奨学金で

皆さんを 応援します!



赴任のご挨拶



校長 後藤 光彦

同窓会の皆様には、日頃より本校の教育活動に多大なるご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

このたび、藤田校長先生の後任として取手第一高等学校から赴任いたしました、よろしくお願い致します。本校に赴任してまず感じたことは、とにかく敷地が広く、前庭もきれいに整備されているなどというものでした。伝統校としての重みをひしひしと感じましたし、また農業関係の施設があるのも新鮮でした。生徒達も元気に挨拶を返してくれ、生き生きとした表情が印象的です。系列に分かれ、自分が興味を持った分野の勉強に取り組んでいることが、良い効果を生んでいると思います。

今年度は、四月から通常どおり新学期が始まり、コロナ感染も下火になるかと思われましたが、本校でも夏休み前に二度コロナ感染による臨時



休校を余儀なくされました。そのような中、部活動では馬術部、陸上部が関東大会出場を果たしました。馬術部三年の女子生徒は、個人の部で全国大会に出場し、二位という快挙を成し遂げました。今年も全校応援はかないませんでしたが、野球部も強豪校相手に好勝負を演じ、頑張ってくれました。七月には、グリーンテクノの生徒達と吹奏楽部が「いなほのすけ市場」にて、農産物の販売や演奏会を開きました。また、ICT教育も本格化し、九月の臨時休校時には、リモートで授業を実施することができました。

一つ残念なことではありますが、来年度の入学募集定員は一クラス減となり、四クラス規模の学校となることが決定いたしました。今後も教職員一丸となって、地元で愛される学校目指して努力していく所存であります。同窓会員の皆様方には、今後とも本校が稲敷地域に存在する唯一の県立高校として更なる発展がみられますよう、ご支援ご協力を宜しくお願い致します。

夢をあきらめないで

副会長 松本 博志
江戸崎西高等学校 (昭和53年度卒)

皆さん、スマートフォンはお使いですか。何だこのオジさん、変なこと言い出したぞ。「当たり前でしょうよ」と言われる今だから語ります。

実は私、四半世紀前に東京で開催された、とある懇談会の席上で、手のひらに乗るような移動端末が情報化の鍵だと言う発言をして、大学教授から「不可能だ」、「何も知らない田舎者が」と笑われた経験があるんですよ。普通ならこれを苦い経験というのかも知れませんがね、私は誇りに思っているんです。

あの時、嘲笑を送って下さったあの方々も今では「便利だねこれは」なんて言いながらスマートフォンを使っているんだらうなと思うと嬉しくて仕方がありません。

当時、私は農業者という立場で出席しておりましたので、未来の農作業について、「世界中どこに行っても移動端末を操作すれば、自分の農

場の様子がわかり、施設や農機具をコントロールすることが出来るようになる」という構想を述べました。それが今日多くの企業や研究機関の手によって、スマート農業や無人農業機械というかたちで実現してきております。

もちろん、この夢の実現は自分の手によって、努力によつて成し得たものではありません。しかし、私はあの時夢を語りました。

大学教授らに嘲笑されながらも、やがて現実となる構想を語ることができたのです。彼らの構想を超える夢を語ることが出来たのです。

皆さんのスマートフォンには何が見えていますか。そこに夢はありますか。皆さんの周辺はどうでしょうか。困っていること、改善したいことありませんか。不平不満を言う前にもう少し先のことを考えると、そこに夢が生まれてくるかも知れませんね。夢をあきらめないで語りましょう。そうしないと実現しませんよ。



人に歴史あり

細田 正幸
江戸崎高等学校 (昭和34年度卒)

人生七十八年を過ごしてきた現在、自分の先祖の歴史を調べてみるのもあながち無意味ではないかなと考えて、墓石の戒名を判読できる範囲で調べてみました。

蓮胞開敷清信士、明治三年庚子十月、戒名から見ると江戸時代末期に家屋敷を開設した事が予想されます。私で六代目になります。

私の父親は、私が二歳の時に南方の島で戦死しておりますので、当然ながら父親の記憶はありません。祖父である一(はじめ)が父親代わりだったのでしよう。

私の最初の記憶に残っているのは、昭和二〇年六月、阿見町の予科練空襲の時、防空壕に避難し、銀色に見える飛行機が南東の空へ編隊で帰って行く姿であります。

「江戸崎高校卒業生名簿」より、祖父の一は、明治四十四年三月、江戸崎高等学校(旧制農学校)第三回卒業

生十三名の中の一人に記録されています。旧君原村からは三名が卒業しております。

農業にも貢献した祖父、戦後長く続いた食料不足の中で米の多収穫技術を確立し、その普及に貢献、陸苗代、早期の田植え、客土等を普及させ、朝日新聞社主催「米作り日本一」の競作で茨城県一位を二年連続で獲得し、昭和天皇にも拝謁してきました。

旧君原村の村会議長を昭和二十四年から三年五ヶ月の間務めていました。

私の場合は、昭和三十五年三月卒業後すぐに、一九六〇年の安保条約反対闘争にぶつかります。警官隊とデモ隊が衝突し、当時、東京大学の女子学生である樺美智子さんが死亡した翌日、国会包囲のデモに参加しました。

昭和四十九年三月、日本共產党公認の阿見町会議員として二十九才で当選しました。当時の議会は「なれ合い宴会政治」で議会の一般質問も無しという状況でした。

議会改革に取り組み、公私の区別をはっきりさせ、公費での宴会はなくなりました。その後、十期三十八年の議会活動の中で「住民こそが主人公」という立場で活動し、町

立図書館の建設、阿見町出身の小説家、下村千秋を顕彰する事業に取り組み、図書館の一角に「下村千秋文学コーナー」を設け、「下村千秋記念文学碑」を建立する事も出来ました。二〇一一年三月十一日、東日本大震災の後、議員を永井さんと交代しました。

福島原発事故による放射能汚染は、阿見町でも農産物の汚染等大きな被害を被りました。「原発0・自然エネルギーの普及」に取り組みなればと太陽光発電の会社を立ち上げ、関連した太陽光発電の発電量は一般家庭一二〇〇戸分相当となっております。今後も地域の為に働いて行きたいと思っています。

野球と共に半世紀



参 与
関川 昭
江戸崎高等学校
(昭和44年度卒)

昭和四十六年七月十二日。その日、晴天の土浦市営球場は高校野球茨城県大会で最高の盛り上がりでした。野球監督としての初試合、対戦校は古河三高です。緊張の連続で

したが、選手達が頑張り、八対一で勝利し、心に残る嬉しい日となりました。二回戦は、水戸農高に二対一で辛勝し、三回戦は水戸工高に五対〇で敗れました。この年、江戸崎西高が分離独立し開校、前監督がご栄転のため、顧問となりました。当時の新聞には、「今春、二十歳の関川監督を迎え全部員が張り切っている。図太い野球を目指し四回戦突破が目標」と書かれました。坂本幸三前監督、木村謙一郎長、選手の皆さんのお陰で野球人生がスタートしました。同時に、一年生だけの江戸崎西高も初戦を突破し話題を集めました。その後十年、私の青春は野球と共に歩きました。部員が少なく九人に満たないときもありましたが、何とか他の部から応援を得て、夏の大会連続出場を繋いできました。指導者としての知識も浅く、反省の連続でしたが、地域の方々、保護者、選手、関係者の皆様に支えられて任務を遂行することが出来ました。

今でも、校歌、応援歌、若鷺の歌等を聴くと、連隊を組む応援団を思い浮かべ、胸が熱くなり、身震いすることもあります。また、日頃から、

母校に野球選手を一人でも多く送ろうと務めてきました。あらためて感謝・御礼申し上げます。

現在、コロナ禍の折り、野球大会、観戦もままならない状況ですが、卒業生として支援にあたりたいと思っております。江戸崎高等学校・江戸崎西高等学校は統合継承され江戸崎総合高等学校に継がれました。野球関係も同様に、相互連携を図り、心を一つに本校野球部を応援していきたいと思っています。

結びに、本校並びに本校野球部の益々の充実・発展を御祈念申し上げます。

思い出など



清原 浩和
江戸崎高等学校
(平成18年度卒)

私が江戸崎高校を卒業して早十年以上が経過しました。現在は陸上自衛官として茨城県内で勤務しています。

自衛隊へ入隊して以来、北は北海道から南は沖縄まで各地を渡り歩き、心身を鍛え、技能を磨き、日米合同訓練等の国際訓練にも参加し、東日

本大震災の時は被災者救援の任務にもあたりました。

過酷な任務や訓練に従事する中で、私を支えてくれたのは江戸崎高等学校時代の友人達でした。地元を離れて初めての寮生活で不安だった夜、災害派遣で悲惨な光景を目にして落ち込んだときなど、しょっちゅう電話して相談にのってもらっていたのを覚えています。地元へ帰省した際などは、皆で集まり騒いで鋭気を養いました。

私を支えてくれた友人達と過ごした高校生活で一番思い出に残ったのは、みんなでトレーニングルームで体を鍛えたこと。通称「筋トレ部」で過ごした日々でした。

筋トレ部はガチンコという程でもなく、真面目かと問われればそうでもなく、不真面目でもない不思議な集まりでしたが、そんな空気が心地よく、仲間にも恵まれ最高に楽しい時間でした。この活動で得た仲間との絆は私のおかげがないと財産です。

ダンベルやバーベルを使用したベンチプレスやスクワット等で学んだトレーニング器材の正しい使い方も自衛隊に入ってから大いに役立ちました。自衛隊は体が資本です

からトレーニングジムなどの施設はとても充実しています。

今は故郷を離れています私を育ててくれた豊かな自然、母校で学んだ教養と友との絆を胸に国民の生命と財産を守り抜くため、今後とも邁進してまいります。

最後になりますが、江戸崎総合高等学校の職員や生徒の皆様、そして、同窓会員各位のご健勝とご多幸を心より祈念申し上げます。

変化する日々の挑戦



相原 利恵
江戸崎総合高等学校
(平成23年度卒)

「古城」の原稿依頼のお話をいただいた時に、ふと、卒業からどれくらいかの年月が経ったのか、数えてみました。今まで考えてたこともなく、今日までおよそ十年、夢中でやってきたのだなあと、そんなことに気付かされました。在学中の頃に思いを馳せると、やはり一番に思い浮かんだのは弓道場の風景でした。高校入学と同時に、初めて弓道という競技に挑戦。

先生や先輩の背中を見ながら、必死に練習してきました。いえ、正直なところを申し上げますと、最初は練習している「つもり」でした。がむしろに稽古すれば上手くなるというわけではなく、生活習慣が乱れ、服装も乱れていた私は、いくら弓が好きでも結果を残すことのできない時期が長く続いたのです。その時、恩師の言葉で気持ちを一新。制服のスカートを膝下まで戻し、ネクタイもしっかり締め、廊下で先生と会えば立ち止まって挨拶、ということを中心がけるようになりました。社会人となった今では当たり前だと思ふことも、お恥ずかしい話ですが、当時の私はそこからの挑戦でした。心が変われば形が変わり、形変われば心も変わるのだと、恩師の言葉で私自身が変化しようとするのが出来ました。

結果は後からついてきました。私は、家族や先生、先輩、後輩、友達など多くの人に育てられ、貴重な経験をさせていただくことが出来ました。ダメダメだった私がいた時期も含め、高校での経験が今でも私の核であり、一生の財産となっています。そんな私も、現在は県立土

浦特別支援学校で中学一年生の担任をしています。毎日がとても楽しいです。こうして日々、生徒たちと一緒に喜怒哀楽を分かち合い、一人一人の小さな変化・成長を間近で見ることのできる職業に就くことができ、心から幸せだなあと感じています。

これからもきつといろいろな変化を求められる壁に直面することがあると思います。大きく変わると書いて「大変」と読みますが、臆することなく、変化することへの挑戦をしていきたいと思ひます。十年前の自分自身を振り返り、そう強く思いました。

今回、大切なことに気付く機会を頂いた同窓会関係の皆様には心から感謝いたします。

江総での貴重な経験



熊野 秀一
江戸崎総合高等学校
(平成28年度卒)

私は、江戸崎総合高等学校に入学して、平成二十九年三月に卒業するまでの間に貴重な経験をさせていただきました。

はじめに、バスケットボール部に入り、忍耐力と、努力

と成果を学びました。

練習中に疲れてしまつて他の部員の足を引っ張つていました。みんなが出来ていることが出来なかった私は、悔しくて、走ることや、シュート練習を重ね、努力しました。とてもハードな練習の時も人一倍走り、耐え抜きました。

ある日、自主練習日があり、部活の先輩と筋力トレーニングを行いました。初めての筋トレは何もわからず、とにかく夢中で行いました。

次の日、すごい筋肉痛で動くのもやつとでした。一週間くらいの筋肉痛が治り、いつもの部活練習が少し楽に感じるようになっていました。

三年生の最後の試合では、負けてしまいましたが、持っている力を出せたこと、当たり負けしない身体になったことにより、努力と成果を実感することが出来ました。

私は、バスケットボール部に入つて良かったと感じたとともに、良い先生に指導して頂いたと思っています。

次に、部活動中に出会った筋力トレーニングです。

なぜ筋トレが貴重な体験かというと、体力がなかった私に、努力した結果と自信が付いたからです。筋トレは、上

半身と下半身を分けて行いました。その結果はバスケットにも十分反映されました。

筋肉や体力が付いて、体つきが変わつてくると、ますます筋トレに惹かれていき、卒業後の今でも、江総のトレーニングルームで筋トレを継続して行っています。トレーニングに関する知識や方法等は、鳥羽先生に指導されました。この出会いがなければ、部活動さえ辞めていたかもしれませし、今現在の私はなかったと思います。出会えて良かったと心の底から思えます。

最後は、野球応援で生徒会補助として活動をした思い出です。生徒会補助の仕事は、生徒会と一緒に応援団と吹奏楽部のサポートをすることで、選手名のプラカードを作ったり、応援団や吹奏楽部のために氷水を用意したりと、裏方に徹する仕事ですが、とても楽しく出来ました。

私は、江総卒業後は大学に進学し、今現在、就活中であります。高校・大学と今まで学んできたことを力にして、更なる自分向上をしようという奮闘中です。

後輩の皆さんのご健闘を期待します。頑張れ江総生！

校内だより

飛べ江総生
この稲敷の地より！

渉外部長

左師 久好

この原稿を書き始めた頃、今年も越冬のため飛来する天然記念物のオオヒシクイ(雁)の報告がされております。遙か北方の国よりこの豊かな田園地帯を目指してくるわけですが、この地の住環境が良いのでしょうか。今年も既に二百羽前後とのこと。ちよつと佇む場となる霞ヶ浦の浄化作用が功を奏し始めたのか、稲の収穫の後の「二番穂」がやはり一番の目当てか…。

「江総生」の皆さんもこの地域の様々な所から通ってますね。学び舎を含めた住環境という視点でとらえますと「地域」というのはやはり清潔で整頓されたものでなければと思います。地域についてはひと昔前に米国のある博士によつてBroken window theoryが提唱されました。それは、割れた窓の建物が放置されていると、それを管理したり修繕する人もいないと思われる。すると、次第に

犯罪が起りやすい環境となり更には住民の安全意識も低下し、その低いモラルが環境を更に悪化させてしまうというものです。これは当時のニューヨーク市長のジュリアーニ氏の「街の改革政策」の柱となった理論で「割れ窓理論」と訳されています。

この理論を応用させ、彼は当時凶悪犯罪が蔓延り世界有数な危険な大都市と言われたニューヨークを劇的に平和な街へと繁忙させました。

同様に学校もやはり整頓され、落ち着いた雰囲気でも過ごせる事が肝要かと思えます。服装や机上整理が基本です。清潔な環境で正しい「形」で授業に臨むと自ずといるんなものが整理されて頭に入ってくるのだと思います。

そして教室から学び、考えることが「社会」への窓口になるのではないかと考えます。世界的にはGlobal warningが叫ばれて久しいですが、SDGsにおいても今に始まったことではありません。教室内や身近なところにおいてゴミの分別はもちろん、更にはできるだけゴミを

少なくしようと考える。また、この残飯や容器はどう処理されるのか、そもそもこの食材はどのように生産され運ばれてきたのか。このスマホや衣類はどのような国で生産されどういった人たちが作ったのか。。「考える」という行為があるから情報を収集してその答えに辿り着こうとするのです。

これから巣立っていく江総生の皆さん、ぜひそのような当たり前で普通のことをしっかりと認識して巣立っていった下さい。これからはニュートラルでスローな社会にならないといけないと思えます。多少の不便も増えるでしょう。しかしそうならないと地球の体力がもたせません。皆さんが将来社会に出て職場やその他の場面で直面する様々な場面で、きつとこれらの考えが原資となり正しい判断につながると思えます。

今年度の学校行事

特別活動部長

坂本 武司

今年度も様々な学校行事を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症により休校の時期が多く、その影響で行事の中止や延期、変更を余儀

なくされました。

生徒の思い出や活躍の場を作る事ができないか、生徒と特別活動部の職員とアイデアを出し合いながら、現状で行える行事を考え取り組んできました。最大のイベントである文化祭はやむなく中止となつてしまいましたが、新しい取り組みとして大きく二つの行事を行いました。

一つ目は映像による野球応援練習です。例年、生徒会と応援委員が中心となつて体育館で行っていた野球の全体応援練習ですが、今年度は一つの年次でさえなかなか体育館に集まることも容易ではない状況ということもあり、全校での練習をどうすべきかを検討していました。応援練習自体の中止も考えられましたが、今までの応援の伝統を繋ぐためにも、何とか練習の継続をしていくということに



クラス対抗綱引き

なりました。感染症が蔓延している限られた環境のなかでも全校生徒に応援の流れを見て理解してもらえる方法として、教室の電子黒板を使用し、応援委員が応援の実演をしている映像を配信しました。現在の状況の中で応援練習を行えたことで、生徒たちも創意工夫を凝らしながら物事に取り組めたのではないかと感じました。

二つ目は十二月に行ったクラスマッチでは新しい取り組みとして、さらに感染症予防の一環として、各年次ごとに一日ずつ大会を行えるよう企画をしました。全体の概要としては、午前中は男女それぞれバドミントンとドッジボールに分かれての球技種目、午後は団体種目として大縄跳び・綱引き・クラス対抗リレーを行いました。一日目と二日目は天候の影響で屋外種目の男子ドッジボールを卓球に、女子のドッジボールを室内に置き換えての実施となりました。体育館ではバドミントンをを行い、球技種目各会場ともにとっても熱い戦いが繰り広げられました。また、午後の団体種目でもクラスが一致団結して各種目に精一杯取り組みました。最後のクラス対抗リ



クラス対抗リレー

レーでは会場全体が選手に声援を送り、各年次とも最高潮の盛り上がりを見せてくれました。準備期間の短さや年次でまとまって動く機会が激減したなかでの行事運営であったため、一抹の不安もありましたが、生徒会や実行委員・担当職員の協力のもと、当日は無事に実施でき生徒たちもとても喜んでおりました。

どの行事においても、生徒会を中心とした生徒たちの創意工夫と、実現に向けた努力があり、熱意を感じることが出来ました。この伝統を今後も引き継いでいきたいと思います。来年度、新型コロナウイルス感染症が下火になり、学校行事も例年の流れで行えることを願っております。

今後とも同窓会の皆様には生徒たちの活躍を応援していただけたら幸いです。

生徒達のために

生徒指導部長

中水 佑

今年度より生徒指導主事の大役を仰せつかりました。教員人生八年目を迎えた若輩者ではありますが、諸先輩方、保護者や地域の皆様方、そして同窓会の方々のご指導ご鞭撻を頂きながら、試行錯誤の日々を送っております。

私は現在、陸上競技部顧問も務めております。専門は長距離種目で、高校時代は駅伝大会を目標に練習を積み、その日々から多くのことを学びました。駅伝と聞きますと、

昨年度の箱根駅伝において駒澤大学が歴史的な大逆転優勝を飾ったことが記憶に新しいかもしれません。私も長年のファンとして、正月はテレビの前で興奮しながら拝見しておりました。その際、駒澤大学駅伝部の大八木弘明監督の記事などを多く拝見し、とても印象に残っていることがありますので、紹介させて頂きます。大八木監督は、古くからその熱心かつ厳しい指導で、二〇〇〇年代には駒澤大学を常勝軍団に育て上げましたが、近年は優勝から遠ざかっていました。そこで監督

は、今の時代の学生達に合わせ、指導を大きく変えたそうです。その人柄や熱心さは変わることはありませんが、監督が時代の変化に対応し、指導の在り方を見直したことで、駒澤大学は再び、常勝軍団への道を突き進もうとしています。強豪チームが低迷した際に、指導者が「代わる」ことはよくありますが、指導者自身が「変わる」ことでチームを復活させることは稀なことですので、大きな感銘を受けました。

時代の流れにに応じて、学校を取り巻く環境も日々変化しています。生徒それぞれと向き合い、よりよい環境作りを推進していくためには、前身の江戸崎高等学校から数える百年以上の歴史を誇る本校の伝統や教育理念を継承しながらも、その変化に対応し、多種多様な視点を持つて教育活動に取り組んでいくことが不可欠です。今後も生徒一人一人が自立して社会で生き、豊かな人生を送ることができるよう、精一杯職務を全うしていきたいと考えます。今後とも、ご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い致します。

進路状況報告

進路指導部長

栗山 季幸

昨年度は新型コロナウイルスの影響により求人数が減少しましたが、今年度は昨年度に比べ約一・二倍の求人を頂くことができました。

また、求人票開示が七月一日、応募書類提出・選考試験の開始が九月十六日となり、一昨年度までの日程と同様でした。結果については、学校紹介による就職希望者で一回目に七十名が受験しましたが、内定者は六十名でした。「就職内定率」は八十六％となり、昨年度より十三ポイント高くなっています。また、その後の試験で五名の内定を頂きました。そして、公務員については、自衛官に一名採用となりました。まだ就職活動中の生徒もおりますが、卒業までには就職希望者全員の内定を目指しております。

進学については、進学希望者が五十九名いますが、四年制大学十五名、短期大学一名、専門学校三十一名、職業訓練学校一名が合格しています。まだ推薦入試や一般入試を控えた生徒がいますが、合格に向けて受験勉強に励んでいる

ところであります。

今年度は、昨年度に引き続き、コロナ禍での進路活動となりましたが、結果を検証して、これからの進路指導に活かしたいと考えております。

最後に、同窓会の皆様の益々のご活躍を祈念すると共に、今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

二〇二二年度 進路状況

主な進学先	主な就職先
茨城大学	陸上自衛隊
江戸川大学	江戸崎カントリ倶楽部
開智国際大学	王子フナエー電機浦工場
聖徳大学	河村電機産業
千葉工業大学	ザイベリアルセンタークラブ
中央学院大学	スタック筑波営業所
帝京平成大学	SHOEI茨城工場
東京情報大学	杉原建設
常盤大学	つくばセントラル病院
流通経済大学	ツムラ
麗澤大学	TDK成田工場
千葉経済大学短期大学部	東洋シャッター
県立土浦薬技術専門学校	トヨタカローラ南茨城
茨城県立農業大学校	日本食研ホールディングス
アール医療福祉専門学校	ネスレ日本
大原簿記公務員専門学校	野村銅機
筑波義塾調理製菓専門学校	日立建機
筑波研究学園専門学校	フジシール筑波工場
つばしなカレッジ専門学校	ブリハムハム茨城工場
東洋理容美容専門学校	ヤマダフーズ
日本自動車大学校	雪印メグミルク
他十校	他二十九社

(二〇二二年十二月十日現在)

人文科学系列紹介

人文科学系列主任

粕山 靖由

人文科学系列の生徒達は、今後の変化の多い社会を生き延びて行く為の学力を身につけることを目標とした授業を受けています。二年生から選択可能な系列のうちのひとつであり、特別進学クラスとして四年制大学への進学を目指す生徒と、普通クラスとして専門学校や就職を目指す生徒の大きく二つに分かれています。主として国語や社会に特化した、いわゆる「文系」と呼ばれる学問を中心に学習していますが、数学や理科の基礎もカリキュラムに含まれているため、学びの上でバランスの良い系列といえるでしょう。

現在の人文科学系列の大きな特色は、選択科目として選べる科目の幅が広いことが挙げられます。特進クラスでは三年生、普通クラスでは二年生から学校が設定科目の中から自分に必要な科目、興味のある分野の科目が選択可能になります。例えば、普通クラスでは二年生で、音楽や書道といった芸術科目や情報系の科目等といった特色ある分野から選ぶことが可能です。



選択科目の魅力は、この学校の他系列の基礎を受講することが出来ることです。総合高校の特色を最大限發揮していると言えます。

いずれの科目も選択科目の特性上、受講する人数によっては、開講できない場合もありますが、こういった自分でも選択出来る科目が存在する事が現在の江戸崎総合高校としての素晴らしい特色であると言えます。

学びは一生続いていくものです。「生涯学習」こそが自己の啓発や充実のため、生活の向上のため必要です。個人だけでなく、社会が持続可能なものであるためにも、やはり学びが必要です。

そういった学びの基礎を学習する事が、冒頭にも挙げさせていただいた変化の多い社会を生き延びていく為の学力に繋がっていきます。

人文科学系列では、これまでも、そしてこの先も、生徒達の明るい未来のための公教育を担っていきます。

年次だより

一年を振り返って

一年次主任

水田 久雄

四月、真新しい制服に袖を通し、緊張した面持ちで入学許可を受けてから早いもので一年が経とうとしています。

今年度も新型コロナウイルスが巷に蔓延し、部活動や学校行事、授業等に影響が出てしまいました。九月には約一ヶ月に渡り自宅学習やオンライン授業が行われました。

生徒の皆さんや保護者の方々も思い描いていた高校生活とはかけ離れた時間になってしまったことと思います。

さて、皆さん初めての年次集会で話したことを覚えていますか。高校生活では、自分の「夢」や「希望」を叶えるための三年間になるように「今を大事に」、「未来を大事に」してほしいと話をしました。今、この瞬間の連続が、未来に繋がります。未来の「夢」や「希望」の実現は、今をどのように過ごすかで大きく変わってしまいます。

よく、あの時「こうしていたら」や「こうしていれば」

二年次を振り返って

二年次主任

大滝 慶人

などの言葉を聞くことがあります。残念ながら時間が過ぎることは出来ません。また、「夢を語る人になつて下さい」と話をしました。

自分の「夢」や「希望」を語ることで、目標が明確となり、今、何をすべきかがわかり、「意識」や「行動」が変化します。「夢」や「希望」を語るにより協力者が出てくる可能性もあるということも話しました。

「夢」や「希望」を実現するために、自らの努力と周囲の協力が得られることで達成できることもあります。

是非、自分の将来のために語って欲しいと願っています。もし、協力を得られたら「感謝」の気持ちをその場で伝えて下さい。

すべては皆さんの未来に通じていくものと考え三年間一緒に歩んでいきましょう。

最後になりましたが、日頃から生徒たちのために保護者の皆様、地域の皆様、そして同窓会の皆様のご支援ご協力に深く感謝申し上げますと共に、皆様方の今後益々のご活躍を祈念いたしております。

二年次からは五つの系列に分かれ、系列ごとに特色ある授業が展開されています。今の二年次は入学当初から新型コロナウイルスの影響により、自宅学習期間が長く続き、やっと登校できたと思うと、クラスマッチや文化祭などの学校行事が中止となっていました。二年次になってからも夏期休業明けは一ヶ月間のオンライン授業となり、難しい状況が続きました。また、沖縄への修学旅行については、中止という苦渋の決断を余儀なくされました。そのような中で、十二月には年次ごとのクラスマッチを無事に行うことができ、普段の雰囲気とは違った生徒たちの澁刺とした姿を見ることができ、非常に嬉しく思いました。

四月からは二年次もいよいよ江戸崎総合の最終年次となり、自らの進路実現に向けて真剣に考え、より一層の努力をしなければなりません。子どもたちの人生の中で最も大きな決断をしなければならぬのが、高校三年生での進路選択です。高校受験とは比べ

ものにならない多くの選択肢から、自分で考え、決定しなければなりません。全員が納得のいく進路選択ができるよう、年次職員を中心として学校全体でサポートしていききたいと思っています。

最後の一年間も年次としては、入学当初から掲げている、「気遣いのできる人を目指す」「何事にも向上心をもって取り組む」を最終的な目標としていきたいと思っています。

我々の年次がここまで成長することができたのも、保護者の方々や同窓会の方々が日々の教育活動にご理解とご協力を頂いたおかげだと思っております。誠にありがとうございます。今後とも変わらぬご支援をお願いするとともに、同窓会の今後益々の発展をお祈り致します。

総決算を前に

三年次主任

青木千日代

由波俊幸前主任に代わりまして、三年次主任を務めることになりました。一年次から①挨拶、②傾聴、③整頓、④自学の四点を集中事項として指導してきたこと、検定試験にチャレンジしたこと、江陵祭で活躍したこと、突然世界

が変わった後は制約の多い中で工夫をしながら二年次の高校生活を送ってきたこと、修学旅行を中止にせざるを得なかったこと、ほかに書ききれないぐらいたくさんのことを引き継ぎました。

一年次の最後の三月、各系列に分かれて新しいクラスで始まるはずだった四月、そして五月も連続して休校になり、生徒たちはもちろん、保護者の皆様もどれほどの不安を抱えてお過ごしだったろうかと思っています。

やっと学校が再開されたときの「遅い新学期」の緊張感と高揚感はどうだったでしょうか。学校があつて授業に出て、お弁当を食べて部活動ができる。級友とリアルに顔を見て話せる。そんな今まで普通だと思っていたことを一度喪失して、しかしまたできるようになった体験は、今後の人生においてきつと役立つはずです。

その高校生活も、まもなく本当に最後の日を迎えます。高校生でなくなった自分を想像できていないかもしれせん。働いて報酬を頂く、自分の行きたいところに自力で行く、お世話になっている人にお土産をかう、帰ってきて改

めて自分の日常に感謝する、また翌日から仕事を頑張る、そういうことができる「高卒」になってほしいと心から願っています。

そのためには地域で、職場で、学校で、先輩方の温かいご指導が必要です。同窓会の皆様には益々のご発展を祈念するとともに、変わらぬご支援とご協力を何卒宜しくお願い申し上げます。

令和四年度事業計画(案)

校内幹事会	随時
本部役員会	七月下旬
本年度事業について	
本部役員会	十月下旬
会報誌編集委員会	
本部役員会	一月下旬
会報誌編集委員会	
同窓会入会式	二月下旬
卒業記念品贈呈	二月下旬
会報誌「古城」第四十五号発行	二月下旬
本部役員会	三月上旬
会計監査	
同窓会代議員総会	三月下旬

支部長

水戸	土浦	竜ヶ崎	八原	長戸	金江津	源清田	長竿	生板	浮島	古渡	阿波	十余島	伊崎	大須賀	根本	太田	柴崎	牛久	阿見	舟島	朝日	君原	安中	木原	鳩崎	沼里	高田	君賀	江戸崎
高木	中澤	岩田	湯原	小川	高橋	佐川	諸岡	荒井	宮本	内埜	吉田	山中	根本	塚本	沼崎	玉造	有坂	飯田	野口	平岡	飯野	菅原	平野	大橋	南房	海老原	清宮	朝日向	清水
	得	邦		尚		洋	周	孝	和	新				憲	好		勝	千	俊		良	栄	勝	幸	孝	美	勝	克	
昂	二	夫	坦	敏	稔	司	示	司	昭	也	武	誠	浩	男	正	栄	芳	春	一	博	治	一	雄	雄	一	弘	男	夫	明

本部役員

会長	山岡恒夫
副会長	徳田好廣
〃	根本弘一
〃	松田由雄
〃	松本博志
〃	内本知美
〃	後藤光彦
監事	中島誠一
〃	岡田守
顧問	中澤繁
〃	飯塚育男
〃	大島居良行
〃	鳥羽裕史
事務局	水野裕史
〃(会計)	

編集後記

二〇二一年も新型コロナウイルスに翻弄された一年となつてしまいました。ようやく落ち着いてきたかと思えば、より感染力の強い、新たな変異株ウィルスが出現し不安な日々が続きます。

そんな中、東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。アスリートの皆さんの活躍には勇気を与えられました。また、アメリカメジャーリーグでは、大谷翔平選手が二刀流として大活躍し、大変話題となりました。今年も明るい話題の多い一年にしたいですね。